

学校 便り	中種子町立星原小学校	令和8年度第5号	 中種子町立 星原小学校 きらきらブログ http://hoshihara.synapse-blog.jp/
	いwashimizu	令和8年9月24日発行	

光る未来へ、地域とともに歩む星原の子供たち

校長 米村 圭史

今、学校教育において「キャリア教育」の重要性が叫ばれて久しくなります。それは決して、将来の「職業選択」だけに向けたものではありません。子供たちが自分の生き方を見つめ、人とのつながりや社会の中で自分のもつ力を発揮し、主体的に生きていくための「生きる力」そのものを育む営みです。本校におけるキャリア教育の最大の原動力、それは他でもない、この「星原の地」そのものにあります。

子供たちが将来、変化の激しい社会をたくましく生き抜き、この星原の未来を創り手として支えていくためには、知識を机上で学ぶだけではなく、地域に生きる人々の姿から「生き様」を肌で感じる事が何よりも大切です。地域の方々の知恵、技、そして温かい心に触れ、共に汗を流すこと。それこそが、他者と協働し、社会を形作る力（社会形成能力）を育む最高の学びの場にあります。

先日、運動会の練習で婦人部より4名の講師の先生方をお招きし、伝統の「星原音頭」の踊り方を教えていただく貴重な機会をいただきました。はじめは少し緊張した面持ちだった子供たちですが、優しく、そして情熱的に手取り足取り教えてくださる先生方の笑顔に触れ、自然と笑顔が広がっていきました。歌詞に込められた意味や、代々受け継がれてきた郷土への誇りを、身体の動きとともに心で吸収していく子供たちの瞳は、実に輝いていました。地域に根ざした文化を自分の足で踏みしめ、手で表現する体験は、子供たちの心に「ふるさと・星原」の温もりを深く刻み込んだと思います。

6月には星原のベテラン農家の方々に手取り足取り教えていただきながら、安納芋の苗植えを行いました。「こうやって斜めに植えるんだよ」「お芋が元気に育つように、土の布団を優しくかけてあげようね」・・・そんな温かいアドバイスをいただきながら、子供たちは小さな手でしっかりと土を触り、一本一本丁寧に苗を植え付けていきました。ふかふかの土の匂い、命を育む大地の温かさ、そして何より、私たちのために時間を割いて教えてくださる大人の真剣で優しいまなざし。土に触れるその一瞬一瞬が、子供たちの勤労観や、自然と共生する心を豊かに耕してくれました。秋の収穫の喜びが、今から本当に楽しみでなりません。

振り返れば、合同運動会もまた、子供たちにとって最高のキャリア教育の舞台でした。競技に、応援に、そしてグラウンドの準備や片付けに、緑門作りに全力で、かつ楽しそうに取り組む地域・保護者の皆様の姿がありました。汗を流しながらきびきびと動き、互いに声を掛け合い、笑顔で一体となる大人の姿は、子供たちの目に「最高にかっこいい大人」「憧れの背中」として映ったはずです。

「あんなふうに地域を支え、躍動する大人になりたい」・・・子供たちの心の中に、そんな無言のメッセージがしっかりと届いた一日でした。

子供たちは、星原の宝であり、未来そのものです。人口減少や少子化といった時代の波がある中でも、私たちがこの星原の豊かな自然、温かい人々の絆、そして脈々と受け継がれてきた文化を次の世代へと繋いでいくこと。それは、持続可能な星原地域を支える「人づくり」に他なりません。学校と家庭、そして地域がひとつの家族のように結ばれ、共に汗を流し、語り合う。この豊かな環境こそが、星原小学校の誇りです。これからも、子供たちが「星原に生まれてよかった」「この地域が大好きだ」と胸を張り、未来へ向かって羽ばたいていけるよう、教職員一同、教育活動に邁進してまいります。保護者の皆様、そして地域の皆様、これからも子供たちのために、変わらぬ温かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。